

地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究*

Study on Effects of Place Attachment on Cooperative Behavior Local Area *

鈴木春菜**・藤井聡***

By Haruna SUZUKI**・Satoshi FUJII***

1. はじめに

地域活動への動機として、あるいはソーシャルキャピタルの一つとして、“地域愛着”が注目されている。これまで地域愛着については、地理学における人間に関わることによって意味づけされる“場所”の探求の現象学的手法によって^{1),2)}、あるいは近年では、環境心理学や社会心理学など³⁾の様々な分野で、研究がなされてきた。

このような既往研究により、地域愛着の醸成は、年齢や居住年数などの個人属性の他、生活環境の評価^{4),5)}や日常生活⁶⁾などに影響を及ぼされることが示唆されている。すなわち、土木計画が創出する各種施設や、交通・都市に関わる諸施策によって人々の行動が変化することにより、地域愛着に影響が及ぼされる可能性が存在するのである。萩原・藤井⁷⁾はこの点に着目し、利用する交通機関により地域風土との接触に差異が生じ、その差異により地域愛着の醸成に影響がもたらされる可能性を、実験・調査より指摘した。また、筆者ら⁸⁾の既往研究では、消費行動についても同様の可能性、すなわち、消費行動の際に訪れる店舗や店舗までの交通機関による地域との関わりが、地域愛着醸成に影響を及ぼす可能性を示唆した。

一方、地域愛着が持つインパクトについても、各所で知見が報告されてきている。例えば、石盛⁹⁾は、地域愛着が高い人ほど居住継続意志や連帯感、地域活動へ積極的に参加する意志が高い傾向を示している。

また、Payton¹⁰⁾は野生保護区という地域の中で、“その場所を共有する個人間の信頼”及びその場所への愛着の存在が、その地域に訪問する人の“市民的な行動(Civic action)”を促す可能性を示唆する調査結果を報告している。

ただし、これまでの地域愛着についての研究は、主として環境心理学をはじめとする他領域の中で各種の分析

が進められてきたこともあり、行政に対する信頼をはじめとする土木計画に直接かかわる諸変数に対する地域愛着の影響は、十分に検討されているとは言い難いものと考えられる。とりわけ、土木計画学の中で、その「形成」の過程に関する検討が進められてきた地域愛着指標については^{7),8)}、その地域愛着指標の高低が及ぼす土木計画学的「影響」については、検討は不十分なままとなっている。

本研究では、このような背景のもと、地域愛着と地域への協力行動をはじめとする土木計画にかかわる諸変数との間の統計的関係を、“地域”の概念や“愛着”の構成について、土木計画の分野で重ねられてきたこれまでの研究^{7),8)}と同様の枠組みのものを用い、検討することとした。

まず、分析の対象とする“地域”については、萩原ら⁷⁾が、「地域愛着」の水準が、地域風土や歴史的景観の保全などにおいての「地域での関与行動」や「地域に対する態度」に影響を与えるであろうと考え、愛着の対象とする「地域」の範囲を、コミュニティでの活動や「地区」における活動の単位となる「居住地の小中学校の学区(校区)程度の広さ」とした定義を踏襲する。

さらに、“地域愛着”についても萩原・藤井⁷⁾が「人間と場所との感情的なつながり」として設定した調査項目を用いることとした。項目については、「地域愛着」の2.で後述する。

これらの前提を踏まえ、本研究では、まちづくり行動や行政の社会基盤整備に対する信頼等の地域への協力行動に関する諸変数に地域愛着が及ぼす影響について検討することとした。

なお、本研究では、これまでの既往研究の中で明らかにされてきた交通行動が地域愛着に及ぼす影響を加味した分析をさらに行うことで、地域愛着と土木計画との関連についての総合的な考察を最後に加えることとした。

*キーワード：地域愛着、地域活動、交通行動

**学生員、工修、東京工業大学大学院土木工学専攻

(東京都目黒区大岡山2-12-1)

TEL03-5734-2590、FAX03-5734-2590)

***正員、工博、東京工業大学大学院土木工学専攻

2. 調査について

本研究では、上記に述べた仮説を検証することを目的として、以下のような概要の「交通行動」「地域に対す

表1 回答者の属性

サンプル数：161世帯 193名
性別：男性95名 女性95名 不明3名
年齢：平均54.7歳（SD15.1歳，最高90歳，最低16歳）
居住年数：平均26.1年（SD19.1年，最高81年，最低1年）
居住地：浜松市 90名 豊橋市 100名 不明 3名

る意識」「地域づくり・まちづくり意識」に関するアンケート調査から得られたデータを活用することとした。

(1) 調査の概要

2006年1月に静岡県浜松市・愛知県豊橋市で質問紙調査を実施した。415世帯に、778枚のアンケートが郵送で配布され、161世帯193名の回答が得られた。回収率は38.8%（世帯）であった。回答者の属性を表1に示す。

(2) 調査項目

本研究において分析に使用した調査項目は、「地域愛着」、「地域への意識・態度」、「移動中の地域風土との接触度」、「交通行動」の4項目である。

地域への愛着・移動中の地域風土との接触度は萩原・藤井⁹⁾が作成した項目を用いた。

地域への意識・態度については、表2に示す各質問項目について、「とてもそう思う」から「全然そう思わない」まで、5段階で回答を要請し、得られた値を分析に用いた。

交通行動については、「外食」「日常的買物」「非日常的買物」「日帰りレジャー・スポーツ・娯楽」の各目的の外出先について、最大5つの目的地についての回答を要請した上で、それぞれの外出先について、「交通手段」「所要時間」「外出頻度」のそれぞれについて回答を要請した。

(3) 尺度の構成

表3は、「地域愛着」及び「移動中の地域風土との接触度」の各尺度に対応する質問項目である。各設問は5件法で設定されており、各項目に対する同意の程度を問う、それらの測定値の平均を各尺度値として求めた。地域愛着は3要素13項目、風土接触度は5項目で構成されている。地域愛着尺度については、地域愛着（選好）・地域愛着（感情）・地域愛着（持続願望）の3つの尺度を用いた。これは、大谷ら¹¹⁾が作成した諸測定項目等を参照しつつ設定した複数項目のデータを用いて萩原・藤井⁹⁾が主成分分析を通じて構成したものである。

なお、既往研究¹²⁾では、これらの3尺度の間には、個人的な嗜好の観点から地域を評価する地域愛着（選好）は比較的短期に醸成され得る一方で、地域愛着（感情）や地域愛着（持続願望）は、選好の程度の影響を受けつ

表2 地域への意識・態度の質問項目

地域への意識・態度
地域をよくする活動は熱心な人に任せればよい
地域の整備は行政がやってくれるだろうと信頼している
近所のひとり暮らし老人の日常的な世話をしたい
町内会活動にあなたは熱心ですか？
まちづくり活動にあなたは熱心ですか？

表3 分析に使用した尺度の構成

地域愛着
地域愛着（選好）（ $\alpha = .886$ ）
地域は住みやすいと思う / 地域にお気に入りの場所がある
地域を歩くのは気持ちよい / 地域ではリラックスできる
地域の雰囲気や土地柄が気に入っている / 地域が好きだ
地域愛着（感情）（ $\alpha = .888$ ）
地域は大切だと思う / 地域に自分の居場所がある気がする
地域にずっと住み続けたい / 地域に愛着を感じている
地域は自分のまちだという感じがする
地域愛着（持続願望）（ $\alpha = .792$ ）
地域にいつまでも変わって欲しくないものがある
地域になくなってしまうと悲しいものがある
移動中の風土との接触
風土接触量（ $\alpha = .857$ ）
（移動中を想定することを依頼）
鳥や虫の泣き声を聞くことが多い
屋外の空気に触れることが多い
地域の人々とあいさつをする機会が多い
地域の人々と話をする機会が多い
道ばたに咲く花や土など、自然のおいをおいをかくことが多い

つ、比較的長期に醸成するものである、という関係が理論的に想定されている。

移動中の地域風土との接触度については、日常的に行っている交通の途中における空気・自然・地域の人々などの地域の風土との関わりの度合いについて、「とても少ない」から「とても多い」までの5段階で回答を要請した。

なお、地域愛着、及び地域風土との接触度の各尺度の信頼性指標は表3に示した通り、十分な水準であった。

また、交通行動については、(2)に述べたような質問項目で回答された交通行動を集計し、移動に費やす1年間あたり時間（移動総時間）を算出した上で、「自動車での移動時間」「自転車・徒歩での移動時間」をそれぞれ移動総時間で除し、各交通機関別の利用割合「自動車利用割合」「自転車・徒歩利用割合」を求め、分析に用いた。

3. 分析結果

(1) 相関分析

まず、上記調査の結果を用いて、地域愛着が地域内で

表4：地域愛着と地域への意識の相関分析

地域愛着	地域への態度・協力行動					
	町内会活動に熱心ですか？	まちづくり活動に熱心ですか？	地域をよくする活動は熱心な人に任せればよい	地域の整備は行政がやってくれるだろうと信頼している	近所の一人暮らしの老人の日常的な世話をしたい	
地域愛着 (選好)	r	.276**	.270**	-.161**	.239**	.165*
	p	.000	.000	.028	.001	.038
	n	183	182	185	184	1185
地域愛着 (感情)	r	.335**	.355**	-.208**	.177**	.162*
	p	.000	.000	.004	.016	.027
	n	185	184	187	186	187
地域愛着 (持続願望)	r	.195**	.188*	-.243**	.038	.162*
	p	.007	.010	.001	.609	.026
	n	187	186	189	188	189

(r=相関係数, p=rのp値, n=サンプル数)

**p<.010, *p<.050

の協力行動へ及ぼす影響について、相関分析を行った。地域愛着の各尺度と、表2に示した地域への意識・態度の質問項目との相関を表4に示す。

表4によると、地域愛着の3尺度と町内会活動・まちづくり活動への態度の相関がいずれも有意に正であり、地域愛着が高い人ほど、町内会活動やまちづくり活動などの地域への活動に熱心である傾向が示された。

なお、地域愛着（感情）については、町内会活動、まちづくり活動の2変数に対して最も高い相関係数を持っていることがわかる。このことは、まちづくり活動や町内会活動といった地域についての協力行動に従事する人は、とりわけ、地域愛着の中でもとりわけ感情的な側面が高い人であることを示しており、地域愛着の感情的側面が地域への協力行動を「促進」する重要な心的要因である可能性を示唆するものである。

また、「地域の整備は行政がやってくれるだろうと信頼している」という質問項目については、地域愛着（感情）及び地域愛着（選好）が有意に正の相関をもつことが示された。その一方で、地域の改善を他者に依存する程度を示す項目とは、地域愛着のいずれの尺度も負の相関を示していることが示された。

これらの結果に、先に述べた地域への協力行動に関する結果を加味すると、地域愛着が高い人ほど、地域のための諸活動を、「他者」ではなく、「自分自身」あるいは「行政」が実施していくことを肯定する傾向が高いことを示していると解釈可能である。

なお、地域愛着の中でもとりわけ「持続願望」の側面については、「行政がやってくれるだろうと信頼している」の項目と相関を示しておらず、また、地域の改善を他者に依存する程度を示す項目と最も強い負の相関をもっていることから、地域愛着における「持続願望」の側面を強く持つ個人は、地域改善のための諸活動を他人任せにしない傾向が存在するものと考えられる。

(2) 共分散構造分析

ところで、前述の通り、既往研究^{7), 12)}では、交通行動による、風土との接触の水準の差異が、地域愛着の醸成に影響を及ぼすという、段階的プロセスが明らかにされている。このプロセスと(1)で示した結果を踏まえるならば、個々人の交通行動は、地域風土との接触の程度に差異をもたらし、地域愛着醸成の水準を介して、地域への態度や協力行動に影響を及ぼす、という因果関係が推定される(図1)。そこで本研究ではこの関係を改めて確認するために、共分散構造モデルを推定した。なお、モデルの推定にあたっては、次のような前提のもとにおこなった。まず3つの地域愛着の指標の間には、既往研究¹²⁾で示されている、先に述べた構造的関係が存在することを想定した。

さらに、「町内会活動に熱心である」と「まちづくり活動に熱心である」、「地域をよくする活動は熱心な人に任せればよい」と「地域の整備は行政がやってくれるだろうと信頼している」の各質問項目は類似性がありそれぞれ項目間の相関も高かったことから、未観測の共通要因が存在するものと想定した。

推定に用いた指標は、交通行動は2、で述べたように「自動車利用割合」「自転車・徒歩利用割合」の2指標、風土との接触度、地域愛着の3指標、及び地域内への態度・協力行動の5項目である。

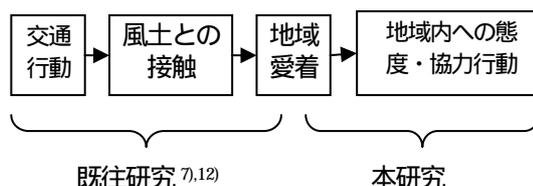


図1 交通行動が地域内協力行動に影響を及ぼすプロセス

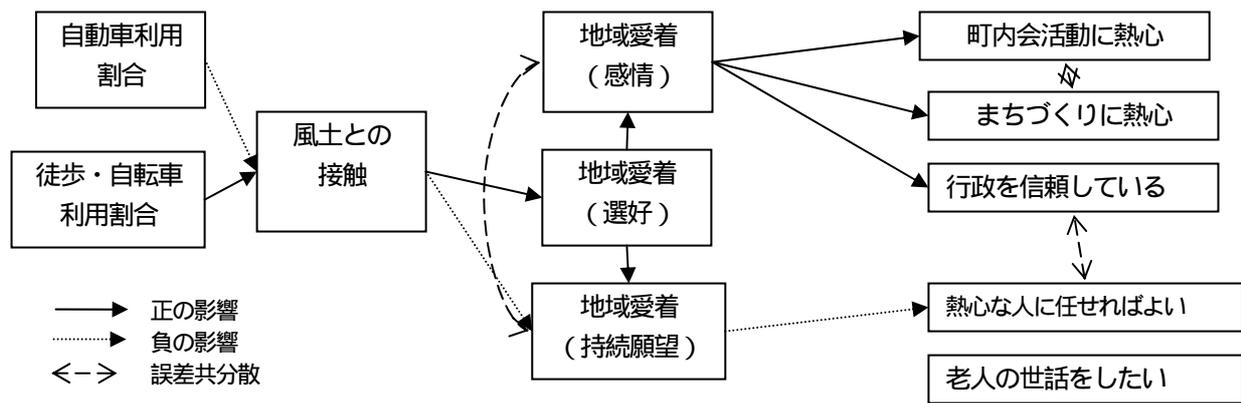


図2 共分散構造分析より推定される因果構造

以上の前提で分析した結果、10%水準で統計的に有意であるとされた因果パスを、誤差項を省略し図2に示す。図2によれば、自動車利用割合は負の影響を、徒歩・自転車割合は正の影響をそれぞれ風土接触度に及ぼすことが示された。この結果はすなわち、その他の交通機関に比べて自動車を利用する割合が高い人ほど地域風土との接触が少なく、徒歩・自転車で移動する割合が高い人ほど地域風土と接触する程度が多いことを示唆するものである。

また、地域風土との接触の程度が、地域愛着（選好）に正の影響を及ぼしていた。なお、地域風土との接触の程度は地域愛着（持続願望）に負の影響を示しているが、地域愛着（選好）への影響を介して及ぼされる間接効果を含む総合効果では、有意な影響は示されなかった。

地域への態度・協力行動の質問項目については、概ね相関分析で得られた結果通り、地域愛着（感情）が強い人ほど町内会活動やまちづくり活動などの地域内の活動に熱心である傾向や、地域愛着（持続願望）が強い人ほど他人任せにしない傾向が確認された。

以上の結果は、交通行動が地域風土との接触、地域愛着を介して地域での協力行動に影響を及ぼすという、図1に示した因果関係が存在する可能性を、統計的に支持するものであるといえる。

4. おわりに

本研究では、地域愛着が地域での協力行動に与える影響について分析を加えたところ、地域愛着が高い人ほど、町内会活動やまちづくり活動などの地域への活動に熱心で、行政を信頼する傾向が示された。さらに、交通行動が地域愛着醸成に及ぼす影響をふまえた共分散構造分析より、交通行動が地域での協力行動に影響を及ぼす

可能性を示唆した。

このように、本研究の結果は、これまで定性的にはほとんど語られることがなかった「交通行動」と「地域での協力行動」について、「地域愛着」を介して分析することによってその関係の存在を示唆ものである。各種交通施策検討の際に、本研究で示したような、地域への態度に影響を及ぼす、というような因果関係が存在することを想定する必要があることを示唆しているといえよう。

また、既存研究^{例え、9)}では、「行政への信頼」と「地域をよくする活動は熱心な人に任せればよい」という質問項目は、「他者依頼」という尺度として同時に扱われていたが、本研究の分析から、“行政への信頼”はただ“他者に依頼する”こととは異なる態度である可能性が示された。今後、さらなる議論が期待される。

参考文献

- 1) イーファー・トゥアン, 山本浩訳: 空間の経験 - 身体から都市へ, 筑摩書房, 1993. 原著 Yi-Fu Tuan: Space and Place - The perspective of Experience, Minneapolis: University of Minnesota Press, 1977.
- 2) エドワード・レルフ, 高野岳彦・阿部隆・石山美也子訳: 場所の現象学 没場所性を越えて, 築摩書房, 1991. 原著 Edward Relph: Place and Placelessness, London: Pion, 1976.
- 3) Vaske, J. & Kobrin, K.: Place attachment and Environmental responsible behavior: The Journal of environmental Education, 2001, vol.32 No.4 pp16-21.
- 4) 真鍋知子: 地域愛着心の規定要因 地域生活環境評価を中心として - , 人間文化研究科年報, 奈良女子大学大学院人間文化研究科, 1996.
- 5) 引地博之, 青木俊明: 地域に対する愛着形成の心理過程の検討, 景観・デザイン研究講演集 No.1, 2005.
- 6) Brown, G., Brown, B. & Perkins, D.: New housing as neighborhood revitalization place attachment and confidence among residents-, Environmental and behavior, vol.36 No.6, pp.749-775, 2004.
- 7) 萩原剛, 藤井聡: 交通行動が地域愛着に与える影響に関する分析, 土木計画学研究・講演集, 2005.
- 8) 鈴木春菜, 藤井聡: 「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集Vol.35, CD-ROM, 2007.
- 9) 石盛真徳: コミュニティ意識とまちづくりへの市民参加: コミュニティ意識尺度の開発を通じて, コミュニティ心理学研究, 日本コミュニティ心理学会, Vol.7 No.2, 2004.
- 10) Payton, M.: Influence of Place Attachment and Social capital on civic action: A study at Sherburne National Wild Refuge, master's thesis, University of Minnesota, 2003.
- 11) 大谷華, 芳賀繁: 地域交通環境の利用が高齢住民の地域感情に及ぼす影響, 立教大学心理学研究, Vol.45, pp.01-09, 2003.
- 12) 鈴木春菜, 藤井聡: 「風土」への接触量の変化が「地域への感情」に与える影響に関する研究, 土木計画学研究・講演集Vol.34, CD-ROM, 2006.